

【DX時代の教材のデジタル化、共有化、そしてオープン化】

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 101名 アンケート提出数： 34件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・落語的な授業からハリウッド映画的授業への転換という変化の表現が、デジタルに疎い分野のわたしでもとてもよく理解でき、そのために学際的な協働が必要なのだと実感をもつことができました。
- ・DXの動向、プラットフォームについて、持続可能な教育生産の必要性
- ・デジタル教材作成のコスト回収を、今後どのようにしていくべきかということについて、意識するようになった。
- ・デジタル教材のコストと回収
- ・デジタル教材のメリットと注意すべきこと。流通についてはプラットフォームが色々できてきているが、これからは開発のプラットフォームが整備されていくとよいこと。
- ・OERの重要性和学習者のメリット
- ・デジタル教材の実際やその活用例を具体的に知ることができ、流通・頒布の方法やそれをめぐるコスト負担の論点について整理していただいて理解が深まった。
- ・歴史的流れから、コロナ禍を経て、どう進んでいるのか、良く分かりました。
- ・初等・中等教育向けに文科省が作成した「学校における先端技術活用ガイドブック」、ここまで進んでいることを知らなかった。
- ・日常業務とは直接の接点がなかった分野ただけに、すべてが新しく知識をアップデートできてよかった。これまでの事例だけでなく、今後の見通しについて、教材開発プラットフォームの標準化や担い手づくりが重要になるという現在のフェーズがわかった。
- ・[4]に書いたように一部聞けなかったのですが、資料を配付していただき、よくわかりました。
- ・教材のオープン化については著作権や費用などの問題が発生するという事は理解していましたが、それをどのように解消するかという点で、各大学での対応ではなく、もっと大きなプラットフォームを構築していけば良いというのは、恥ずかしながら私には思いつかなかった考えでしたので非常に勉強になりました。
- ・情報技術が発展してきた流れ
- ・デジタル教材の作成の必要性や資料49の「教育をシステムとして考える」について、専門性・教育の質の維持とその予算確保・財源などにまで踏み込んで、提言を伺うことができ、文系私学から文系・理工系、一部医療系までもつ予算が乏しい公的機関に移籍して、困っていた私にとって、「目から鱗が落ちる」、事務局運営の一つのゴールイメージを持つことが出来ました。ありがとうございました。
- ・1時間という限られた時間の中で、日本の高等教育におけるDX化の現状と課題が具体的にわかった。
- ・10年20年単位で考えると電子化はこんなに進歩していたのかと改めて考えた。過渡期にオンライン授業をやらざるを得ない状況が起きたことは、ことばは悪いが大がかりに実験ができたようなものなので、これをきちんと生かしたい。

- ・デジタル教材の必要性について改めて確認できました
- ・教材のDX化は本学でも取り組まなくてはならない事案ですが、AR, VR など様々な事例をご紹介いただき、大変参考になりました。
- ・フィールドワークで生かせるVR教材、「教科書代0円」の効能
- ・コロナ禍は未曾有の災難ではありましたが、悪いことばかりではなく、教育のオンライン化とそのツールの開発がかなり進んだということがよくわかりました。
- ・日本におけるデジタル教材の共有化・オープン化の現状や問題点についての知見が得られました。プラットフォームに関して教育面では意識がまだ低いことがよくわかりました。
- ・途中参加のため、後半の30分程度しか参加できませんでした。
- ・デジタル教材のオープン化において、図書館でも協力できる部分があることが判ったため、これらに関する知識を深めていきたいと思いました。
- ・教科書のあり方については非常に賛同する面がありました。特に医療系は出版するところには古くなっていることもあるし、学生の経済負担の観点からも見直すべきだと思いました
- ・京都大学の取り組みなど、先進的な事例を紹介していただき、大変勉強になりました。発想の転換が必要だと感じました。
- ・DX時代での大学教育のあり方
- ・デジタル教材の事例、経済性など
- ・コロナ禍でのオンライン授業等、幸いにもこの時期に発生したため、支障なく授業を行うことが出来たことを分かりやすく説明いただき、納得できました。
- ・著作のプラットフォームに関するお話があったが、教材に限らずこれからのDX時代における著作物の活用を見据えた場合、このような包括的に利活用を支援するためのツールの構築は一つのキーポイントになり得る可能性を感じた。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・冒頭の方の経緯のご説明で若い方はわかりにくかったのではないかと思います。
- ・費用回収モデルのところに興味深く、もう少し詳しくうかがいたかったです。
- ・高等教育全体の、教材のビジネスモデル、ビジネススキームの構築。
- ・教材のデジタル化やオープン化の方向性は理解できたが、それを安定した制度にするまでにどのような道筋をたどるのかは、まだはっきり見えていない状況であるという印象を持った。
- ・良く分かりました
- ・分野にもよるのですが、ビデオ教材が一番便利とも言えないような。動画も含めた視覚に訴える教材は自分も使ってるし、もっと利用したいのですが、聴覚利用の教材は余り利便性を感じていません。
- ・資料49「教育をシステムとして考える」：UKのオープンユニバーシティでのインタビューをもとにしたご説明の中で、教科書執筆はEditorの仕事とありましたが、日本の公的教育機関の現状、特に設置自治体の関心が薄れてしまった公立大学法人では、教育職員に負担が集中しがち、事務局側からアプローチをしようとしてもなかなか質・人財ともに十分にリソースを割けない現状があります。組織の問題といえそうなのですが、エンドユーザーである学生に「隠れた学費」である教科書代をなるべく減らしつつ、良い教育を提供し組織としてアウトカムの質を維持していくにはどうしていけばいいのかという高等教育機関の経営面の課題がどうしても解決しづらいなと思っています。
- ・現状もよくわかったし課題もわかったが、しかし今回のコロナによるオンライン化をどう生かしていけるのかはちょっと見えなかった。

- ・質疑応答で最後の方でプラットフォームのことが出ていましたが結局のところ誰が担うのか、喜多先生のような知識と経験があって裏方の仕事も引き受けてくださる方がいない大学はどうすればいいのか。
- ・教材のデジタル化・オープンアクセス化を推進するにあたり、あらためて、教材のチェック体制の留意点を整理しておきたい。
- ・図書館はデジタル資料の提供や機関リポジトリの活用などで貢献できると思いますが、その他に具体的に何かできることがあるのでしょうか。
- ・オンライン授業に対しての忌避感があるという話があったが、同様にデジタル教材の導入においても一定数の教員は否定的だと思われる。これらに対する教員の意識改革にはどのようなことを行うのが効果的なのか、という疑問を持った。例えば、機関における固定費の補助等が実施された場合、これまでデジタル教材を導入してこなかった教員はそれをメリットとしてとらえ、制度を利用し、デジタル教材を導入してくれるのだろうか。喜多先生の話にもあったが、出版者があまり乗り気ではないこともあり、デジタル教材については否定的な教員の意見をよく聞くような気がする。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・看護学研究院の者ですが、看護には、看護教育という専門があり、学会もあつたり、学会のなかでも教育委員会などもあり、教育FDもよく開催され、全般的によく取り組まれていると思いました。
- ・学習者中心で、以下に学習者が新たな学びを深めアウトプットしてくれるかが大事だと思います。
- ・自律的な学生の育成のために、どこまで支援するのか？どう支援するのか？
- ・デジタル化に対応できる教員の能力
- ・教育・学修支援のために必要と思う資質・能力は昔ながらの考えから脱却が一番重要。
- ・国際化の進展で語学力(英語力)が教職員に必須なものとして各大学が語学研修を取り入れたように、デジタル技術の活用は必須であり、これを扱う能力が不可欠になっているため、語学のようにこれを育成する普遍的な研修制度の創設が必要なのではないか。
- ・大学の教員が教えるのとは別に、理解の進捗、レポートの書き方、文献の探し方、申請書類のいろいろについてサポートする体制を、オンライン化に合う形で再構築していく必要があると思う。チャットや zoom でガイドランスや質問受付できるようになったのは良かったので、この体制がもう少し授業にまで及んでいった方がいいと思っている。今は先生方が無理にオンライン質問につきあっている状態だが、今後続けていくのは難しい。
- ・大学における学修支援はやはり組織的な取組と体制が必要だと思います。本学でもコロナ禍でオンライン授業は昨年度は大半の授業で行っていました。学務課とメディアコミュニケーションセンターがポートフォリオを充実させて学生が使いやすく整備したことは学内的には大変有意義だったと思います。
- ・オープンソースソフトウェアの活用を期待しております。EUでは、教育機関をはじめ、さまざま行政組織でオープンソースソフトウェアの導入と活用が進んでいます。ソースが公開され、世界中でのコミュニティプロジェクトに開発参加することで、グローバルな人材育成にも貢献できます。20年ぐらいオープンソースソフトウェアのコミュニティやシステム開発に参加した経験から、ご協力できることがあれば、ご支援も可能です。ご検討いただければ幸いです。

4. オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・私は地方大学勤務なので、コロナ以前よりも今の方が研修機会も気軽さもあってよい。とても便利になったと思う。

- ・急に学内の会議が入って、最初の一時間程聞けなくて残念でした。
- ・質問者本人の名前が参加者全員に表示されてしまうのはいかがなものでしょうか。回答者や事務局に名前が知られる点は質問者本人も承知しているとは思いますが、質問者には誰が参加しているのか全くわからないという状態で参加者全員に本名が表示されてしまうというのは好ましくないように思います。もし今後も質問者の名前を参加者全体に表示するのであれば、質問を受け付ける段階でその旨伝えた方が良いのではないのでしょうか。
- ・先生のお話は大変わかりやすく、聞きやすかったです。
- ・事前に配付資料があると理解しやすいと思うが、この流れになれることが必要で、後で録画、資料が入手できれば、振り返ることができそうです。
- ・回答後に質問事項の内容が表示されたが、できれば質問を読んでいる際に表示していただくと、回答のみこちらで記録すればいいため、助かります。
- ・資料について、開始前にダウンロードしておけるようにしていただくと大変ありがたいです。
- ・今後も、オンラインでのセミナーを開催していただくとありがたいと思います。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・質問への回答をいただけてとてもよかったです。参考になりました。プラットフォームのことも最近話題になったことでしたので、考え方をすることができて有益でした。
- ・R教材などはやっていますが、めまいを起こしたり副作用が心配です。また、課題の先延ばし行動などが見られた場合の対処の仕方などについても工夫が必要だと思います。
- ・1,2で述べたように教材のデジタル化やオープン化に向けて理解を深めることができ、受講してとても有益だった。
- ・今回のアドバンス編があれば、参加したいと思いました。
- ・全国に向けたこのような有意義な研修を実施されるのには体力が必要かと思います。感謝しております。
- ・高校までの教材は共通規格になっているので、大規模デジタル化に対応しやすいですが、大学の教材は不統一なので、一部は大規模デジタルにできると思いますが、多くをそうするのは難しいのではないかと思います。また、高校までの共通規格教材も、現場ではカスタマイズして使うことが多いのが実態だと思いますが、デジタル教材はカスタマイズがしにくい印象を受けます。
- ・タイムリーなテーマ内容でとても学ぶことが多かった。
- ・非常にためになった。また、大学の授業もそうなのだが、今後小中高のオンライン化や電子化を担っていくのは今現在大学で教職課程を取っている学生なので、教職課程の学生の意識やITスキルを調査した方がいいと感じた。
- ・コンピュータの歴史から現在の最先端の教育資源の話まで幅広くお話いただき大変有意義でした
- ・職場にしながらこのような素晴らしい内容のご講演を拝聴でき、とても嬉しいです。ありがとうございます。
- ・1時間の講演でしたが、非常に分かりやすく飽きずにお話をお聞きすることができました。ありがとうございました。
- ・本日のセミナーに参加させて頂き、有り難うございました。集約しますとQ&Aの先生のご回答に多々うなずかされました。
- ・1時間の講演と20分の質疑で、時間的に参加しやすかったです。

